

長井フットパス



みずはの小道

～かわからまちへ、まちからかわへ～

長井市は江戸時代に舟運によって栄え、川に隣接する商業地が発達し、当時の歴史的建造物等が現在でも色濃く残されています。古くから生活に水利用が密着しており、市民と“かわ”の結びつきは極めて強く、最上川の水源地である長井ダムやダム上流部にある三淵溪谷など観光資源として期待されている魅力的なスポットも多く存在します。

かわまちづくり事業では、長井市の特徴である「かわ」と「まち」を繋げ、回遊性を高めるため、地域住民と連携しながらフットパス並びに看板やルートサイン等の整備を行いました。

フットパスとは

森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【Path】のことです。

みずはの小道の由来

「みずは」とは、水の神様のことを言います。長井には、水の神様の使者の黒獅子まつりを奉納するまつりがあり、水にまつわる物語をたどる楽しみもあります。



まち



最上川舟運で栄えたまち

かわ



豊かな自然

長井地区かわまちづくり



かわからまちへ

まちからかわへ

○かわまちづくり事業の連携

住民



フットパスウォーク(飛び石で川を渡る)



フットパスウォーク(まちなか水路沿い)



美化活動



ルートサインの設置



道の駅「川のみなと長井」



土系舗装されたフットパスルート

市

国



フットパス看板の設置



舟通し水路(宮舟着き場跡)



堤防階段

○活動(活用)の様子

ながいフットパスウォークとは

長井市内のフットパスルート歩くイベントで、平成24年度から開始しております。観光ボランティアガイド「ながい黒獅子の里案内人」のもと、市内のルートを2、3時間かけて歩きます。

普段通り過ぎてしまうような場所でも、歴史や自然の解説を聞きながら歩くことで、地域への理解が深まり、愛着が生まれるきっかけになっています。

平成27年度からは、年5回開催するようになり、知名度の向上やピーターの増加により、現在では当初よりも多くの参加者で賑わうようになりました。また、芋煮の振る舞いなど地元市民のおもてなしがあり、市内外からの受け入れ体制も充実しています。

フットパスウォークの様子①



置賜白川フットパス

雄大な山々を眺めつつ、自然を感じながら川辺を歩くことができます。

フットパスウォークの様子②



まちなかを流れる河川

市内には多くの川が流れており、川のせせらぎを聞きながらまちを歩くことができます。



桜づつみをウォーキング



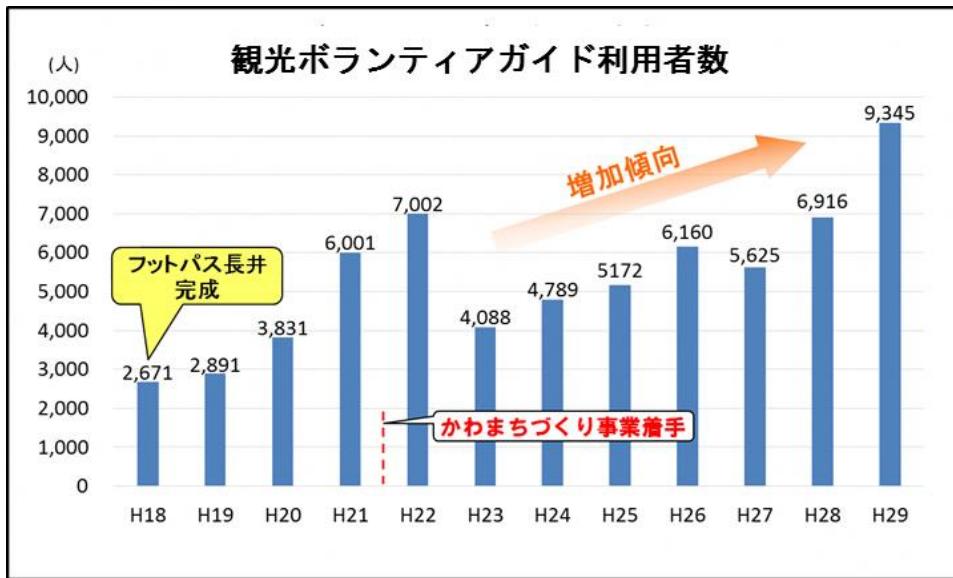
菜の花畑をウォーキング



支川古川付近をウォーキング



寺の住職からまちの歴史等について講話



- 観光ボランティアガイド「ながい黒獅子の里案内人」は、現在21名で構成されており、市内の観光地やまち歩きガイドを行っています。
- ガイドを行った人数は平成23年から増加を続け、平成29年にはおよそ1万人近くもの観光客を案内しました。



観光ボランティアガイドが、かわとまちをつなぎ、回遊性を向上させ、観光交流人口の増にも寄与しています。

○今後の展望

フットパスを活用したイベントを引き続き開催していくとともに、最上川の水源地である長井ダム、道の駅「川のみなと長井」や最上川河川緑地を活用し、さらなる観光交流人口の増加を目指します。

